

ヤブこぎをして尾根に出る。

(記・

[タイム] 持場沢出合(7:15)→井戸の沢出合(8:35)→二俣(10:15)→右沢分岐(10:40)→尾根(12:10)

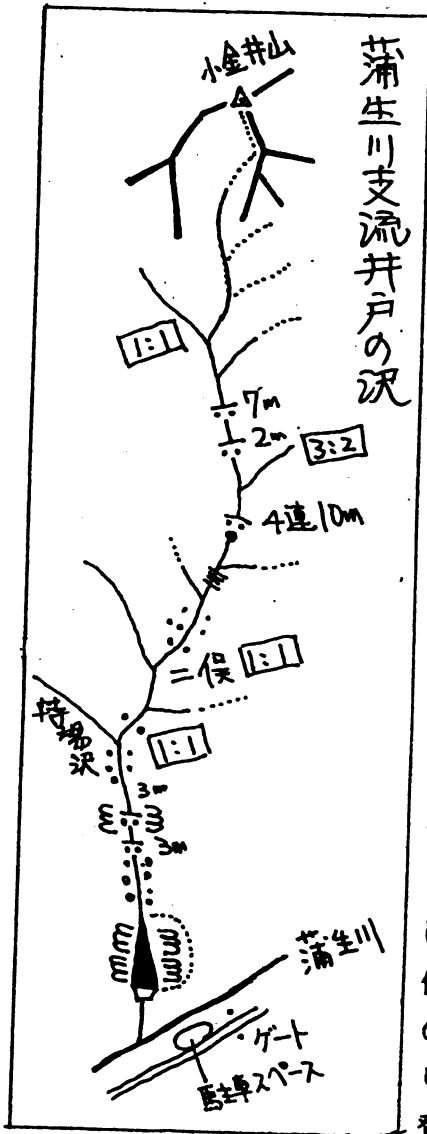
蒲生川支流井戸の沢 1995年7月29日

林道のゲート手前に車を置き、入渓する。すぐに砂防ダムが現われ、右側を捲く。釣人が入っているらしく、踏跡がついている。沢に戻るとしばらくは河原歩きが続く。3m滝を越えるとすぐに大岩が重なったような滝(3m)に出会う。ここは持場沢パーティの鈴木さんに、お助けロープを出してもらい、無事通過する。再び河原歩きとなって持場沢との分岐となる。小休止し、持場沢に入るパーティと別れ、小金井山に突き上げる井戸の沢の遡行を続ける。

しばらく河原歩きが続く。やがて4段10mの滝。難なく越える。このあと2つの小滝を越え2つ目の二俣を右に入るとしばらく進むと、早々に水が濁ってしまった。そのまま沢をつめ、最後の草付き混じりのスラブを登ったが、小金井山のやや南側に出てしまった。ヤブこぎにうだりながら北上し、なんとか小金井山のピークに立つ。ピークにはプレート等はなく、胸ぐらいのヤブの中に三角点があ

るのみであった。

[タイム] 出合(7:20)→持場沢出合(8:35, 8:40)→小金井山(11:15)



蒲生川支流清作沢

1994年7月31日

L

清作沢に入ると、すぐ大きな砂防ダムに出会う。堰堤に登ると、茶色の水が溜っている。泳ぐ気にもならないので、捲くことにする。左側を捲くが、シャクナゲのヤブで、なかなか歩みにくい。やっとのことで沢に戻ると、しばらくは河原歩きが続く。

小白沢との出合を確認した後、清作沢に入る。すぐ4mの滝が現われ、左側をクリアーする。次の8mの滝は右に高捲く。二俣では9mと5mの滝が出合っており、その真中を直登。小規模の滝が

続いた後、この沢最大のハイライトともいべき4段50mの大滝に出会う。なかなかの威圧感がある。左側を高捲くこととしたが、この高捲きもやさしくはない。沢に戻るともう滝はかからない。最後はスラブ状の所を登って、840.2mの三角点を踏んだ。

